

**【国語】**

**ICTの効果的な活用例**

【領域等】思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

【学年】第5学年

【単元名】事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう

【題材名】提案しよう、言葉とわたしたち

**【主な単元の学習活動】**

- 1 「2年生にキラキラ言葉・行動を広める提案をする」という学習の見通しをもつことができる。
- 2 提案するために、説得力のある理由を明確にすることができる。
- 3 説得力をもたせるために必要な資料を決め、準備することができる。
- 4 体験や分かりやすい事実を伝えるとよいことに気づき、構成メモを作成することができる。
- 5 「問いかけ」や「呼びかけ」を使って、スピーチ練習をすることができる。
- 6 「ポインティング機能」を使って、指し示しながらスピーチ練習をすることができる。(本時)
- 7 学習した「ポイント」を使って、説得力のある提案をすることができる。

**【第6時 「ポインティング機能」を使って、指し示しながらスピーチ練習をすることができる。】**

**ねらい** サンプルスピーチを比較することを通して、聞き手をより説得するためには、資料を適切な場面で提示し、工夫して説明するとよいことに気づき、自分の伝えたいことを伝えるために、意図をもって資料を適切な場面で提示し、ポインティング機能を使ったり資料を拡大したりしながらスピーチ練習をすることができる。(思・判・表A(1)ウ)

| 学習過程      | 学習活動 ★ICTの活用   | 教師の支援 ★ICTの活用   |
|-----------|--|---|
| <b>導入</b> | 1 単元を貫く課題と本時の位置を確認する。<br>2 サンプルスピーチ①と、サンプルスピーチ②の映像を見る。<br>3 本時の課題を確認し、本時の見通しを立てる。<br>資料を効果的に使うポイントを見付け、説得力のあるスピーチの練習をしよう。  | ★本時の位置を大型画面に映した学習計画表で確認し、学習の内容や単元を貫く言語活動、相手や目的を確かめる。<br>★大型提示装置を使って、学級全体で2つのサンプルスピーチを見て、比較できるようにする。   |
|           | 4 サンプルスピーチ②の映像を見て、よさを考え、「ポイント」をまとめる。<br>・ポインティング機能を使って資料の該当箇所を囲んだり線を引いたりする。<br>・ピンチアウトして資料の該当箇所を拡大表示する。<br>・聞き手の注意を喚起するように話す。<br>5 スピーチ練習をする。(個→全体→グループ)<br>・一番伝えたいことを伝えるために、資料にどのように着目させるか考え、構成メモに記入する。<br>★画面録画機能を使い、自分のスピーチをシートに録音・再生し、自分の表現の工夫について改善する箇所を見付け、繰り返し練習する。<br>★大型提示装置を通して、抽出児童の発表を全体で視聴し、観点に沿って交流して、よさを学ぶ。<br>★仲間から学んだよさを必要に応じて取り入れながら、生徒間通信の機能を使ってアドバイスをしたり、認め合ったりする。 | ★学級全体で確かめたポイントについて、大型提示装置を使って再度確かめ、自分が伝えたいことをより適切に伝える示し方を捉えられるように促す。<br>・説明を補足したり、伝えたいことを強調したりするなど、話し手としての意図を明確にしながら、話す内容と資料の示し方の整合を考えるように促す。<br>★大型提示装置に発表動画を映し、抽出児童が学級全体の場でスピーチを実演する。<br>・「話し手が伝えたいこと」と伝え方の工夫がどのように結び付いているかを考え、交流するように促す。<br>★グループ交流が早めに終了した児童は、他のグループのスピーチ動画を見るように指示し、他者から学ぶ機会を確保する。 |
| <b>展開</b> | 6 学習を振り返る<br>・本時の学習を振り返り、伝え方を工夫することで感じたことなどをまとめる。<br>★アンケート機能を使い、本時の学習活動に対する達成度・満足度等を回答する。   | ・振り返りの視点を提示する。<br>★アンケート機能によって児童から送信された自己評価を集計し、指導改善・学習改善に生かす。  |
| <b>終末</b> |  |   |

**ICT活用のポイント**

画面録画したスピーチ動画は、協働学習支援ツールの提出箱に保存させることで、児童が自身のスピーチを何度も練り直す様子を評価したり、指導が必要な児童を随時確認して個別に指導したりすることができるようにする。

【国語】

# ICTの効果的な活用例

【領域等】思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

【学年】第6学年

【単元名】具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう

【題材名】私たちにできること

## 【主な単元の学習活動】

- 1 学習の見通しをもつ。(身の回りの問題について考える・提案する文章を書くことを知る。)  
「資源や環境を大切にするために、学校でできることを考え、グループで提案書をつくる」
- 2 身の回りにある問題について考え、提案のための資料を集める。
- 3 グループで、問題点や解決策など具体的な事例を取り上げながら、提案内容について話し合う。(本時)
- 4 提案する文章の構成を考える。
- 5 提案する文章を書く。
- 6 読み合っ感想を伝え合い、学習のまとめをする。

【第3時 グループで、問題点や解決策など具体的な事例を取り上げながら、提案内容について話し合う。】

ねらい 提案を分類したり、関係付けたりして提案の具体的な内容を明らかにすることができる。

(思・判・表B(1)ア)

| 学習過程      | 学習活動 ★ICT の活用  | 教師の支援 ★ICT の活用   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |  |
|-----------|--|--|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|--|
| <b>導入</b> | 1 提案書について確認する。<br>・「提案すること」「提案理由」「具体的な内容」「提案が実現した時の効果」を書く。<br>・各自で考えた「提案すること」をグループの仲間と共有する。<br>★タブレットの付箋機能に記入した各自の提案を、グループの仲間に送信する。<br>2 本時の課題を確認し、学習の見通しを立てる。<br>グループで、提案する具体的な内容を考えよう。   | ★前時の板書や、単元指導計画等を大型提示装置に映し出すなどして、本時の学習の見通しを立てる。<br>★大型提示装置に教科書のモデル文を提示することで、視覚的に理解することができる。<br>★タブレットの付箋機能などを使用して、グループの仲間に各自で考えた提案を共有する。              |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |  |
| <b>展開</b> | 3 複数の提案を分類したり関係付けたりして、グループでの提案内容を考える。<br>・無理なく取り組めて、全校が楽しめるものがあると思うから、その順序で考えてみよう。<br>・それぞれの提案は、どんなよさや難しさがあるのか、表にしてみよう。<br><div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>節電をして環境にやさしい学校へ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>節電をして環境にやさしい学校へ</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>△</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> </div> </div> |  |  |  |  | ○ |  |  |  | △ |  |  |  | ・矢印や、図、表などの示し方を提示することで、提案を整理することができるようにする。<br>・内容の検討の仕方が分からない児童には、順位をつけること、よさや難しさで考えることなどの助言をする。<br>★提案を分類したり、関係付けたりしている児童のタブレットを大型提示装置に映して提示する。 |
|           |  |  |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |  |
| ○         |  |  |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |  |
| △         |  |  |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |  |
| <b>終末</b> | 4 グループで、どの提案がよいのか、また、どのような内容にするのかを考える。<br>★タブレットで分類整理した提案を見せ合う。<br>・全校みんなが楽しめる取組になるといいから、興味を持ってもらえる展示コーナーの設置がよい。<br>・展示コーナーの設置は、見てもらえないと、効果があまりないと感じる。<br>・全校が通る昇降口に設置するとみんなが目につきそうだ。クイズを入れるなど、工夫すれば、楽しめるものになりそうだ。<br>5 学習を振り返る。<br>・本時の学習を振り返り感想をノートに書く。<br>★ノートを撮影し、個々のICT端末に保存するとともに、教師へ送信する。   | ★それぞれの児童が考えた提案内容(内容を検討したもの)は、タブレットに保存し、教師に送信することで、評価に生かす。<br>★提案を分類したり、関係付けたりすることで、具体的な提案内容が工夫できたグループを意図的に取り上げ、全体に紹介する。(根拠となった図や表を大型提示装置に映しながら紹介する。) |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |  |
|           | ★児童から送信されたまとめの記述を、評価に生かす。  |  |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |  |

## ICT活用のポイント

タブレット上で、「矢印や図、表などに付箋を自由に配置する」「配置したものをタブレットで視覚的に仲間に表示」ことで、様々な提案の中から、最も適切なものを考えるといった、内容の検討(分類したり関係付けたり)に関わる指導事項を効果的に身に付けることができる。

**【国語】**

**ICTの効果的な活用例**

【領域等】思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

【学 年】第4学年

【単元名】読んで感じたことをまとめ、伝え合おう

【題材名】初雪のふる日

【主な単元の学習活動】

- 1 学習の見通しをもつ。  
・『初雪のふる日』を読んで、お互いの感じたことや考えたことをはっきりさせて読書感想文交流会をしよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。
- 2 教材文「初雪のふる日」を読み、初読の感想を書いて交流する。(本時)
- 3 教材文を読み取る。
- 4 感想文を書く。
- 5 感想文を交流し、学習を振り返る。

【第7時 感想文を交流する】

**ねらい** 「初雪のふる日」を読んで、自分が感じたことを言葉や色を使って表し、感想を交流することで互いの感じ方に違いがあることに気付くことができる。(思・判・表C(1)力)

| 学習過程      | 学習活動 ★ICT の活用  | 教師の支援 ★ICT の活用  |
|-----------|--|---|
| <b>導入</b> | 1 本時の課題を確認し、学習の見通しを立てる。<br>「初雪のふる日」を読んで初めの感想を書き、仲間と交流して、自分との違いを見付けよう。  | ★文章だけでは想像しにくい児童もいることから、大型提示装置に挿絵を提示する。  |
|           | 2 「初雪のふる日」を音読する。<br>・登場人物の様子や、使われている言葉などについて、どのような印象をもったかを書くようにする。   | ・着目する言葉や表現（天気、色、大きさ、繰り返し、修飾語、対比等）を読む前に意識させることで、どの児童も感想をもてるようにする。  |
| <b>展開</b> | 3 感想を書きまとめる。<br>・読んだ感想を文章と色で表現する。<br>★協働学習支援ツールにある12色のカラー付箋を活用して感想を書きまとめる。<br>★「怖い」「恐ろしい」など暗い気持ちの感想は寒色系の付箋、「楽しい」「おもしろい」など明るい気持ちの感想は暖色系の付箋、「不思議だ」などの感想は白というように、感想の内容によって付箋の色を使い分ける。 | ★言葉では十分に自分の感想を伝えきれない児童もいるため、短い言葉と色を使って、どの児童がどのような感想をもっているかを素早く把握する。<br>★個々の学習進行状況をモニタリングで把握する。<br>・個別の支援では、言葉もしくは色のどちらかをまず考えさせ、その後どの色や言葉が自分の感じたことに一致するかを考えるよう指導する。                    |
|           | 4 書きまとめた感想を全体で交流する。<br>★協働学習支援ツールの提出機能を活用して、全員の感想を大型画面で共有する。<br>・色に注目することで、自分と考え方が似ていたり、違っていたりすることに気付く。  | ★「提出機能」で感想を提出させる際に、次のように設定しておく。<br>①無記名にする。<br>②目隠し機能を使って全員の考えが見えないようにしておく。<br>・①については、どの児童も安心して自分の考えを提出できるようにするためである。<br>②については、自分が少数意見であることで提出しにくくなったり、仲間の考えに流されてしまったりすることを防ぐためである。 |
| <b>終末</b> | 5 学習を振り返る。<br>・本時の学習を振り返り、まとめを書く。  | ★児童から提出された感想から、どの児童がどのような印象をもっているかを把握する。  |

**ICT 活用のポイント**

ICT を活用して感想を交流することで、より多くの仲間と感じたことや考えたことを共有しやすくなる。また、文章だけでなく色を活用することで、視覚的に自分と違うのか、同じなのか、似ているのかなどを把握できるようになる。これにより、これまで感想を書きまとめることを苦手とする児童も、短い言葉と色という選択肢を増やすことによって、より主体的に学習活動に取り組むことができる。